

ブダペストその街と水辺

(株)間組土木本部設計部 設計第4課
(元研究第一部主任研究員) 河内和博

1. はじめに

平成3年7月にハンガリーの首都、「ドナウの真珠」と呼ばれるブダペストの街と水辺を視察する機会に恵まれた。その概要と印象を述べることにする。

・ブダペストの街

現在のブダペストは人口約200万人、中部ヨーロッパ最大の都市である。市の中央よりやや西側をドナウ川（当地ではドゥナ川と呼んでいる）が街を分断して南北に流れている。ブダペストはこの川の右岸に発達したブダと左岸側のペストが1873年に合併して生まれた都市である。ブダとペストは互いに機能を分けあい、補いあって発展してきたので、街の性格が異なっている。

ブダの街は高台にあり、ハンガリー王の居城があったところでかつては政治の中心としての性格が強かった。対岸のペストはいわば下町で商業の中心である。(写真①、②)

ブダとペストはもともとドナウ川の兩岸の別々の街であったため、川がそれぞれの縁になっている。ペストの中心

である繁華街は川から300mほど離れたところにある。両方の街とも川に接して発生し、川から離れる方向に発展している。

2. ドナウ川の特徴

ブダペスト市内でドナウ川の川幅は約300mである。川の中にはいくつかの島がある。

河道は完全な掘り込みで、平常の流量では河岸は水面より2m程度以上高い。護岸は直立または階段状でコンクリートや石材で完全に固められている。

水は河道全体にわたって流れており、河原はない。流速はかなり速く、水は泥を含んでいて濁っている。「美しき青きドナウ」のイメージとはかなりの隔りを感じた。

・ドナウ川の水辺

19世紀に描かれた風景画を見ると、左岸側の河岸にはある程度の幅のスペースがあって、船着場や道路などに利用されていたようである。このスペースは現在は主として道路になっており、市街地の道路事情を反映しているように

写真①



写真②



見受けられた。この道路がまちと水辺を分断する形になっていてまちから水辺へのアクセスは一般に悪い。

このようななかであって、もっとも活気があるのは左岸側ペストの街のエルゼベト橋から鎖橋の間である。

この区間の土地利用は川側から船着き場、歩行者空間・駐車場、車道、線路、歩行者天国となっている。(写真—③)

写真—③



写真—④



歩行者天国は線路とほぼ同じ高さで、車道よりも数m高くなっており、川を望むことができる。この歩行者天国と周辺には植樹がされていて、緑のやや多い空間となっている。屋外レストランやビアガーデンが並ぶこの場所から眺めるドナウ川とブダの街は美しく、多くの人で賑わっていた。夜になっても賑わいは変わらず、ドナウの水辺で楽しく時を過ごすようすから、この国の人々のライフスタイルの一端を垣間見ることができた。(写真—④)

ブダペスト随一の繁華街であるVaci通りは、この歩行者天国の背後約250mのところにあることを考えれば、ここがドナウ川沿いの水辺のなかで最も賑わいのある場所であることは偶然ではあるまい。

道路と河岸の間や周辺には、ここのほかにも緑地や公園等が配置されていたが、上下流方向に連続していないことや水辺へのアクセスのわるさなどの問題があって、すでに開発された都市空間での水辺整備の難しさをあらためて認識させられた。

親水という観点からみると、本川は流速が速いことや河原がないこと、船舶の航行が頻繁であることなどの理由もあって、川自体に親しむというよりは川をながめて楽しむ、あるいは船から川や街をながめて楽しむというのがここの川との接しかたであろうと思われた。

親水や水上スポーツという点では、ドナウ川本川よりもむしろ川の入江や市民公園にある池が活用されていた。

3. マルギット島とネブ島

ドナウ川に浮かぶマルギット島は長さ2.5km、幅0.5kmの大きな中の島である。

この島はかつては王家の狩猟場であったが、現在では市民のレクリエーションの場となっており、自動車交通は制限され動植物は保護されている。島のほとんどの部分は自然風の公園であるが、温泉付きのホテル、グラウンド、野外劇場などの施設もある。

マルギット島はブダペスト市民にとって自然に接することができる最寄りの場として、子供から老人まで多くの人に親しまれている。

都市から地下鉄で約15分、マルギット島の上流約1kmの左岸寄りのところにネブ島と呼ばれるところがある。ここは、その名のとおりにかつては中の島であったと思われるが、現在では上流端が左岸とつながり、奥行き1.5kmほどの入江を形成している。入江は本流と違って流れはなく水面は静かで、水は澄んでいる。

この入江は工場群の港として利用されているほか、ボートやカヌーなどの水上スポーツにも盛んに利用されている。ネブ島は樹木に覆われた静かな島で、艇庫が立ち並びドナウの水面利用の拠点になっている。(写真—⑤)

写真—⑤



4. おわりに

ブダペストの街は美しく、環境にも恵まれている。豊かな水辺空間もある。歴史を感じさせるこの街は大戦後に復旧されたが、旧き時代のおもかげを残している。それにもかかわらず、というよりもむしろそのために近代化のしわよせが川にきている一面は否定できないように思われた。

しかし、考えてみると街は博物館ではない。いろいろな意味で人が住みやすいことが求められているはずである。

そのためには水辺はどのようにあるべきか。このことを広い視野で考えてみる必要があると思う。